

## 平成22年5月の解説（週間天気予報）

### 【5月の天候状況】

上旬と中旬は、東・西日本では高気圧に覆われて晴れる日が多くなりましたが、中旬は東日本の日本海側では、寒気の影響で一時天気がぐずつきました。北日本では低気圧や寒気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。沖縄・奄美も低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。下旬は、太平洋岸を進んだ低気圧や上空に寒気を伴った動きの遅い低気圧の影響で北日本から西日本では曇りや雨の日が多くなりました。特に22日から25日はほぼ全国的に大雨となり、5月として日降水量の記録を更新した気象官署がありました。

月を通しての日照時間は、北日本や東・西日本の日本海側、沖縄・奄美で平年より少なくなりましたが、東・西日本の太平洋側では多くなりました。降水量は北日本の太平洋側で平年より多くなりました。沖縄・奄美では平年並みとなりました。気温は、月を通しての寒暖の変動が大きく、寒気の影響が長く受けた北日本で平年より低くなりました。

### 【5月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年<sup>（注）</sup>より7ポイント高い77%で、ほぼ全国的に5から12ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、北海道と九州南部地方で例年よりそれぞれ0.5と0.4小さくなった他はほぼ全国的に例年並みとなり、全国平均は例年より0.1小さい2.8でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、北海道と北陸地方で例年より0.5小さくなった他はほぼ全国的に例年並みとなり、全国平均では0.1小さい1.9でした。

<sup>（注）</sup>例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【7月の週間天気予報の利用にあたって】

7月に入ると、梅雨は平年では、九州南部の7月13日ごろから、東北北部の7月27日ごろにかけて南から順番に明けていきます。しかし、梅雨明けの時期は年によって大きく違います。昨年（2009年）は、東北地方や中国地方などでは梅雨明けが特定できないなど、不順な天候が続き、北日本と西日本の日本海側では月間日照時間の少ない記録を更新しました。農作物の成長には、日照不足とともに長雨や低温も大きく影響します。7月に週間天気予報で曇りや雨の予報が続く、平年より低い気温の予報の場合は、早めに対策を検討するようお勧めします。